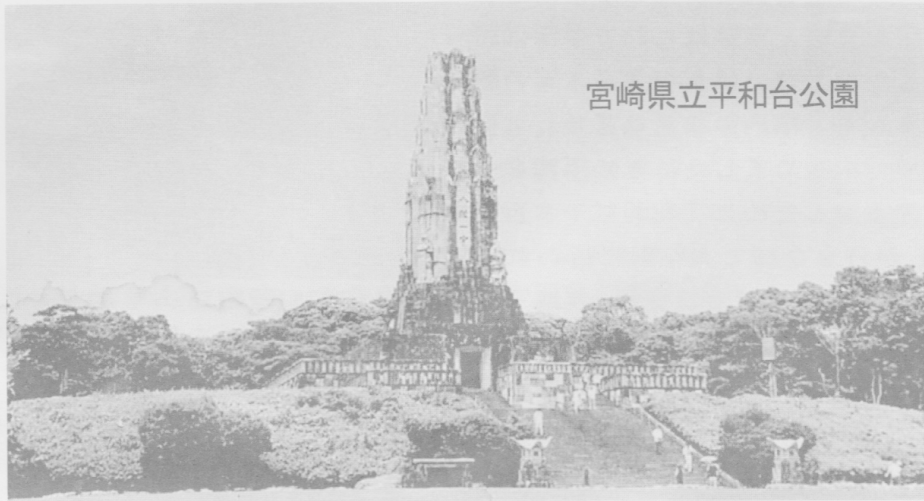


はっ こう いち う

「八紘一字」の塔とは何か



宮崎県立平和台公園

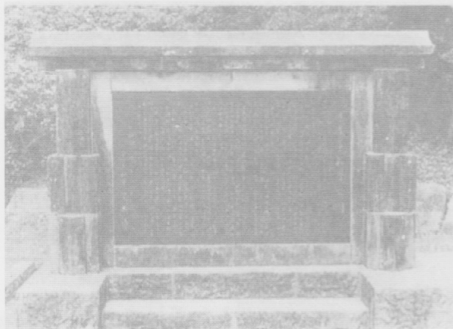
ここは、海拔60mの高台にある観光名所「県立平和台公園」です。南西に宮崎市の中心街を見下ろすことができ、東に遠く阿波岐^{あわぎがはら}の松林と広大な日向灘^{ひゅうが灘}を見渡すことができます。巨大な石造りの塔「八紘一字」の塔は、1940(昭和15)年、日本建国「紀元二千六百年」を祝って建てられました。「八紘之基柱^{あめつちのもとはしら}」と名付けられ、塔の正面には「八紘一字」の文字が刻みこまれました。人々はこの台地をやがて「八紘台^{はっこうだい}」と呼ぶようになりました。

「八紘一字」は、日蓮宗系国柱会^{にちれんしゅうけい}の会員で国家主義者の田中智学^{ちがく}が世界統一の柱として1913(大正2)年、日本書紀の「八紘為字^{はっこうみじ}」を引用して造語したものです。

1937(昭和12)年7月7日、「盧溝橋事件」勃発の日、朝鮮総督府の警察部警務局外事課長であった相川勝六(佐賀出身)が宮崎県知事に任命されました。相川は着任早々、「尽忠報国・堅忍不拔・挙国一致」の日本精神をもって時局に対するよう「県民の覚悟」を説き、県民総動員の勤労奉仕隊「祖国振興隊」を結成し、出征軍人の家族を支援し、塔の建設作業にも動員しました。

1940(昭和15)年7月、混迷する世界情勢の中、第二次近衛内閣は、「基本国策要綱」において「八紘一字」の実現^{じつげん}を国是と定め、「大東亜新秩序建設」を進めるとともに国民に戦意高揚を求めました。

知事は国策を先取りするように“紀元二千六百年”を祝う記念物、“御幣^{ごへい}”(神主の祭事用具)の形をした塔の建設構想を発表。彫刻家日名子実三(大分県出身)が矛と盾を組み合わせてデザインした塔は、石柱の高さ36.4m(120尺)、日本一の高さを誇りました。



県立平和台公園由来碑

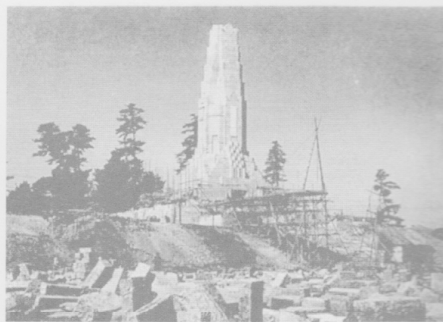
塔の石は、国内はもとより植民地台湾・朝鮮、傀儡国満州など海外の日本人団体からの献石でした。日本軍が中国の戦場から送った石には貴重な文化財も見られます。

1945(昭和20)年敗戦。戦後削除された由来碑文の跡に、1971(昭和46)年、黒木博知事が現在の由来碑文をはめ込みました。そこには「友好諸国から寄せられた切石」とか「『八紘一字』の文字が永遠の平和を祈念して」とかということばが見られます。はたしてこれらのことばは史実に添ったものでしょうか。

アジア・太平洋戦争と「八紘一宇」

「盧溝橋事件」を発端に日中全面戦争が始まりました。中国戦線では死傷者が増え、国内では生活苦と戦争への不満が高まりました。その不満をそらし、戦意を高揚させるために「紀元二千六百年奉祝記念祝典」が日本全国で大々的に行われました。

相川知事は、紀元二千六百年を迎えるに当たり、宮崎が“皇祖発祥の地”であることを強調し、「八紘之基柱」（「八紘一宇」の塔）の建設を提唱しました。



1939（昭和14）年、建設中の塔

荒魂一武神



奇魂一漁業



幸魂一農業



和魂一商工



「八紘一宇」とは、「天皇支配のもとで、世界を一つの国にする」という意味です。明治以降、日本は、欧米列強に後れをとると領土拡張の野心に燃え、日清戦争、日露戦争に勝利し、「満州」（現中国東北部）に支配を広げ、「大韓帝国」（韓国）を併合し、さらに日中戦争を引き起こしました。

塔の完成間近い1940（昭和15）年9月、日本は「日独伊三国同盟」を結び、翌41年12月、東南アジアに資源確保と植民地拡大を目指してマレー半島コタバルに侵攻、続いて日本の中国侵略に反対するアメリカの真珠湾を攻撃、アジア・太平洋戦争へ突入しました。

「八紘一宇」の塔は、国民を戦争へ一致団結させる精神的な支柱となりました。

しかし塔が建立されてから4年9ヶ月後、日本は戦争に敗れ、侵略と軍国主義のシンボルであった「八紘一宇」の文字と四神像のうち荒御魂、他に由来碑文、大日本国勢記、定礎式の辞は占領軍の命令で撤去されました。

削られた「国勢記」（塔の背面）

「紀元二千六百年」（相川書）の下の白い大理石は「大日本国勢記」があった痕です。そこには「大日本帝国は神国なり、・・・皇威の及ぶところ北は黒竜江畔より・・・」と書かれ、日本の領土、樺太・朝鮮・台湾・太平洋の委任統治の島々の範囲が経緯度で細かく記されていました。また「ドイツ、イタリアと盟約し、世界の新秩序建設の偉業に邁進し、もって八紘一宇の大理想を顕現せんとす」と刻まれていました。戦後「荒御魂」像や「八紘一宇」の文字が復元された時、「大日本国勢記」と「定礎式の辞」の原作者（日高重孝）が冊子を出版したので内容が明らかになりました。

白く残る「大日本国勢記」の痕



戦後の「八紘一字」の塔

1945年、日本は、敗戦とともに、明治以降戦争によって拡大していった領土の全てを失うことになりました。翌1946年1月、塔から「八紘一字」の文字と前述の四つの遺跡が「武装解除・非軍事化」による日本の民主化を目指す占領軍の命令「神道指令」（1945年12月15日）で撤去されました。また、「八紘一字」という塔の名称の変更も占領軍から求められたようですが、いつ、どのような経緯で「平和の塔」と呼ばれるようになったのか正確にはわかりません。

1950年代になると、地元の大宮小学校・大宮中学校の校歌の歌詞にも「平和の塔」が登場するようになり、「平和の塔」という呼称は広く宮崎市民の間で使用されるようになりました。同じ頃、アメ

リカの対日政策は、朝鮮戦争（1950年6月25日勃発）を契機に、国家安全保障会議文書「対日政策に関する勧告」（1948年10月7日）をうけて大きく転換しました。それは、日本を冷戦下において共産主義陣営に対抗することのできる自由主義陣営の強力な同盟国（軍事的・経済的パートナー）に組み入れようとするものでした。公職追放の解除（旧軍人・官僚等の復帰、1951年）、沖縄を含む琉球諸島・大東諸島・小笠原諸島・西之島・沖ノ鳥島・南鳥島等のアメリカによる信託統治を認めたサンフランシスコ平和条約の調印、それと同時になされた米軍の日本駐留を認めた日米安全保障条約の調印（1951年9月8日）、日米相互防衛援助協定調印（1954年3月8日）、警察予備隊（1950年8月）→海上警備隊（1952年4月）→保安隊（1952年10月）→自衛隊（1954年7月）の発足は、そうした対日政策のあらわれでした。

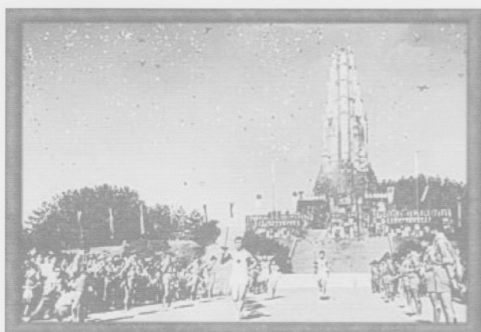
他方、日本経済は、アメリカ経済に依存・従属しつつ、大企業への財政・金融・税制上の優遇措置によって、1956年の『経済白書』が「もはや『戦後』ではない」と述べたように、高度成長期へと突入して行きました。白黒テレビ・電気冷蔵庫・電気洗濯機等が家庭に出回り始め、美空ひばり・雪村いづみ・江利チエミの三人娘が大衆娯楽雑誌のグラビアを賑わせ、石原裕次郎主演の日活青春映画が大ヒットし、暗かった戦争の記憶を払拭するかのよう^{オリンピック}に人々の生活に明るさがもたらされました。こうした中、宮崎は観光で有名になり、県は1957年には「塔」周辺一帯を「平和台公園」と命名しました。

安保闘争の年1960年が過ぎると、日本経済は飛躍的な成長を遂げて行き、1968年には国民総生産世界第3位となりました。県は、県財界の復元の動きに乗じ、1962年9月、県民の反対を押し切って、工芸品として武神像復元を許可しました。1964年東京五輪では、平和台公園を聖火リレー第2コースの起点として誘致^{きてん}。黒木博知事は、五輪の精神と「八紘一字」の精神は同じだという県民の一部の

人たちの意向をうけて、五輪直後、「八紘一字」の文字を復元。さらに黒木知事は1971年には、剥ぎ取られた元の「由来碑」跡に「友好諸国から寄せられた切石」とか、「『八紘一字』の文字が永遠の平和を祈念して」というように、虚偽の文章を書き込みました。以来観光ガイドには、「八紘一字」の塔が史実と違う「平和の塔」として紹介されています。



文字と武神像がない 1962 .8.16



塔をスタートする東京五輪聖火リレー

石の証言

東京五輪後、1971(昭和 46)年新たに黒木知事によって書き込まれた由来碑文に「世界各地に在住した日本人団体及び友好諸国から寄せられた」とありますが、実際はどうでしょうか？

【送り主が刻まれている石、1789 個の内訳】

- 日本の植民地と占領地から----- 364 個
 - ・ 台湾~41 ・ 樺太~1 ・ 朝鮮~123 ・ パラオ~1
 - ・ 中国(中国占領地、日本軍支配地満州・関東州)~198
- その他----- 9 個
 - ・ カナダ~3 ・ アメリカ~2 ・ フィリピン~1
 - ・ ドイツ~1 ・ ペルー~1 ・ シンガポール~1
- 宮崎県、国内から----- 1416 個

海外の石のほとんどは、日本が軍事的に支配していた所から運ばれています。ドイツの石を除いて、全て海外日本人団体の献石で、友好国のドイツからは民間の碎石工業会社からの石です。満州国や中華民国の特別市など国名が刻んである石がありますが、日本が侵略していた国々を「友好諸国」と呼べるでしょうか。

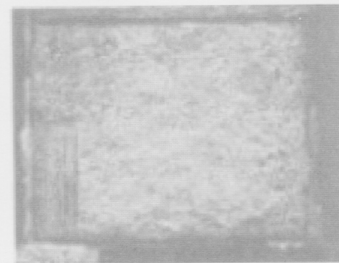
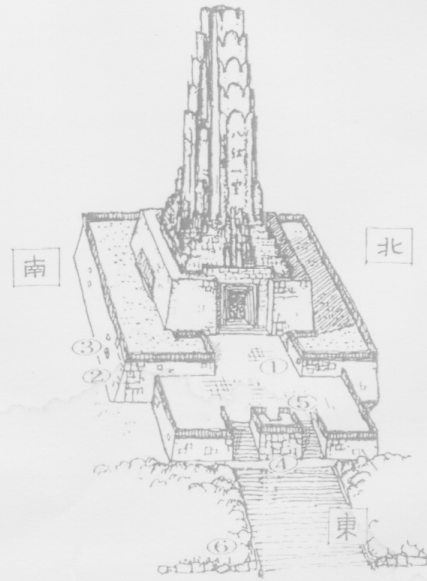
相川知事は朝鮮総督府勤務時代に関東軍の板垣征四郎と知り合い、陸軍大臣となった彼に献石を頼みました。板垣は中国で戦闘中の日本軍全軍に「軍又は師団毎に各々二個を標準とし内一個は軍所在地付近のもの、一個は第一線のなるべく皇威の及べる極限点付近のもの」と採集・送付を命じました。日本軍が奪った戦利品であることは明らかで、友好的に寄せられたものではありません。

■①南京日本居留民会 (中国)

塔に向かって右に薄茶の石灰岩に麒麟と長枝蓮を配した見事なレリーフがあります。南京市博物館長、王興平氏は、「明の永楽帝時代の皇帝・貴族の文様で中国に返還されれば国宝になると思う」と鑑定し、「日本居留民会は、日本軍の庇護のもとに中国人を弾圧しました。石は奪い取られたのも同然です。」と指摘しました。

■②朝鮮総督府 (韓国)

1910 年日本は大韓帝国(韓国)を併合、植民地として支配、李王朝時代王宮だった景福宮の正面に総督府庁舎を建設しました。初代総督寺内正毅陸軍大臣は武断政治を行いました。戦後庁舎を博物館に利用していましたが、解放 50 年「大日本帝国」の象徴は完全に取り除かれました。



■③台中州教育会 (台湾)

1930(昭和5)年、台湾が日本の植民地の時、官憲の差別的な取扱いから少数民族(先住民族)の反乱が起こり、台中州霧社で日本人134名が殺されました。軍が鎮圧しましたが、太平洋戦争直前まで抗日は続きました。戦火に怯える原住民『母と子』を宮崎の塩月画伯が描いています。

献石者の家族の話「父が台中の教育委員の時、阿里山から石を運んだが、職員が怖がり、父一人が三人の原住民と登ったといひます。真実を知り心が痛みます。」(宮崎県人・福岡在住)



■④中支志賀中山隊 (上海)

私たちは、1994年に行った調査で、孫文が計画し蒋介石が建てた大上海都市の「上海市政府庁舎」、現上海体育学院の門に、肌色の花崗岩の唐草と同じ模様を見つけました。

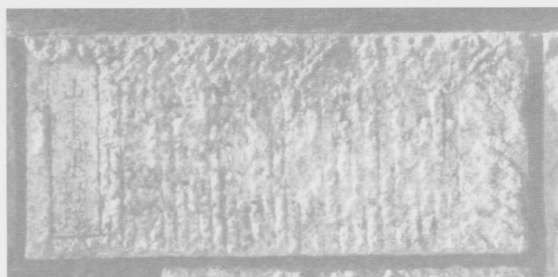
四方の門の内、日本軍の攻撃で破壊された東門だけ唐草模様がなく、セメントで修復されていました。花飾模様、龍・虎の浮彫りや寺院風の青瑠璃瓦の独特な「民族形式」の特徴を持つ屋根、半植民地からの脱出を目指す中国民族を象徴した建物です。

上海体育学院の李金虎副教授は「八紘一字」の説明に、「お！大東亜共栄」と思わず日本語で驚いていました。



■⑤山東省水野隊 (泰山)

「大山に登りて天下を小なりとす」のことわざ通り、秦の始皇帝、漢の武帝、後漢の光武帝は、泰山で、国家永続を願い「封禪儀式」を行いました。泰山は、中国人にとって聖なる山であり中国の五つの世界遺産の一つです。(封禪=天地の祭)



■⑥多田部隊 万里長城 (北京)

「万里長城」も世界遺産の一つです。「県立平和台公園」の由来碑後ろの草むらに土留めとして転がっています。

1997年、中国人民抗日戦争記念館于延俊副館長が塔を視察。石を見つめながら「非常に心が痛む。万里長城は民族の誇りで象徴です。中国人にしてみると『平和の塔』とは言えません。侵略と罪の証しです。」と嘆かれました。



由来碑後ろの土止め石

塔の内部(厳室=いつむろ)

厳室への入り口、銅製の扉 (蚊帳の釣手、通宝などを鑄潰した)

入り口、銅製の扉は日名子実三の作です。神話の神武東征、日向(美々津)からの船出を描いたもので、軍船が揃い、兵士たちが盾を並べて乗り込んでいます。船は宮崎県西都原出土の船形埴輪を模しています。

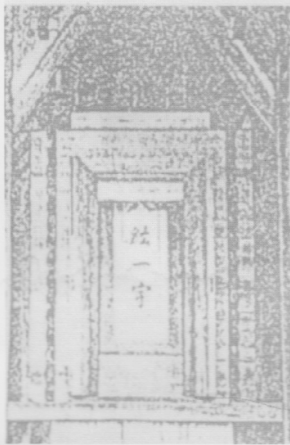
扉の上部には天皇が代々受け継いでいるという三種の神器、刀(草薙剣)、鏡(八咫鏡)、勾玉(八坂瓊勾玉)が見られます。銅製の扉は天皇の権威のお陰で戦時供出を逃れました。

1941年「八紘一宇」の塔に近い皇宮屋境内に「皇軍発祥之地」の碑が建てられました。翌1942年、日向市美々津には、高さ10mほどの波頭の形をした「日本海軍発祥之地」と刻まれた碑が建てられました。



「神武東征」銅製の扉

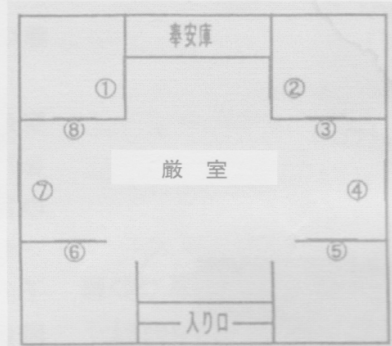
奉安庫



厳室・塔の内部

日名子は、塔の内部を「厳室」と呼び「八紘之基柱の魂というべき部屋」と位置づけました。入り口から真直ぐ広い空間の正面に、木づくりの「奉安庫」があり、秩父宮の「八紘一宇」の真筆が納められていました。占領軍から破棄を命ぜられました。宮崎神宮の宮司により保管されていたようで、現存するといわれています。

四方の壁には、神話と皇国史観に基づく武力統一の絵が日名子の得意とする浮き彫りで描かれ石膏のままで掛かっています。「奉安庫」の左側には「南米大陸の図」、右側には「大東亜の図」が掛けられています。



①「南米大陸の図」

新大陸をめざす中世の帆船と船首に日の丸をつけた移民用貨客船が描かれています。ブラジル(第一便「笠戸丸」)やペルーをはじめ南米の国々、東南アジア一帯、フィリピンなど多くの日本人が入植しました。移民の行く先もまた、皇威の及ぶ所と位置付けていたようです。

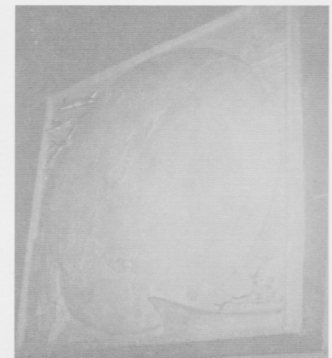
(レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m)

②「大東亜の図」

日本軍の軍艦や戦闘機が描かれています。軍事力を背景に「八紘一宇」の実現をめざしていた大日本帝国の姿が描かれているといえるでしょう。(レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m)

②大東亜の図

戦闘機(左上)軍艦(右下)



③「国土奉還」

出雲の国を開いた大国主命が高天原の天照大神の命に従い国を譲る「出雲神話」です。出雲を献上した大国主命は出雲大社に祀られました。（レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m）

③国土奉還



④「天孫降臨」

天照大神の孫のニニギ尊（上中央の子）が高千穂峰に天降る時、天狗鼻の大男（猿田彦）が道を塞いでいました。アメノウズメ命が艶かしく問う場面です。「萬邦平和」と共に大きな凶で、天照大神から「地上に君臨せよ」との神勅を受けたニニギ尊の「天孫降臨」は、戦前、小学校の「日本歴史」で教えられ、天皇制のよりどころでした。

（レリーフの大きさは、縦約4m・横約2m）



⑤波限の産屋

⑤「波限の産屋」

「日向神話」神武天皇の父ウガヤフキアエズ尊の誕生。兄の釣針を失くし山幸彦（ニニギ尊の次男・ヒコホホデミ尊）は海神から針を返してもらい、娘豊玉姫を妻に貰いました。妻が「出産を見ないで」と言ったのに覗きました。そこにワニザメがいました。妻は怒って海に戻り妹の玉依姫がその産子を育て、後にその子と玉依姫は結婚し神武が生まれます。

（レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m）

⑦「萬邦平和」



⑥「明治維新」

明治維新により政治の実権を天皇が握り皇居を江戸に移し東京と改めました。遷都のため新しい皇居に入る天皇の神輿です。

（レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m）

⑥明治維新



⑦「萬邦平和」

場面は旧「満州」、現在の中国東北部。女神を中心に日・満・支（支那＝中国）の子どもたちが手を繋いだ姿は、まさに「八紘一宇」が実現した姿といえるでしょう。大地に君臨した女神の脇に爆撃機、頭上に皇軍が銃剣をかかえ突撃しています。「満州」は日本の植民地に他ならず、国策会社・南満州鉄道株式会社を設立し、特急アジア号を走らせて多くの日本人を入植させました。（レリーフの大きさは、縦約4m・横約2m）

⑧紀元元年

⑧「紀元元年」

初代天皇の即位、日向から奈良橿原への遷都。津田左右吉は『古事記及び日本書紀の研究』で「神武を神格化する為、九州日向を神代発祥の地に定め東征し即位した」と述べたために、1940年代表作四著の発禁処分を受け、早大教授を追われました。（レリーフの大きさは、縦約2m・横約2m）



考える会の歩み

1991年に発足した「平和の塔」の史実を考える会は、2012（平成24）年5月の総会で、史跡「八紘一字」の塔の史実に忠実であることを鮮明にするために、「八紘一字」の塔を考える会に改称しました。これまでと同様に、定期学習会や資料発掘、礎石の現地調査、機関紙『石の証言』の発行を続けています。

1993年には「礎石のルーツを訪ねる旅」で韓国^{チョルラブクトド}の全羅北道を、翌年には中国の内モンゴル・北京・南京・上海を訪ねました。その旅で学んだ成果やそれまでの会の活動の成果を1995年にブック・レット『石の証言—みやざき「平和の塔」を探る』（本多企画）に纏め出版しました。

1996年9月、宮崎市観光課に観光案内板の記述が不正確で史実に反することを指摘しました。市は翌年、観光案内板から史実に反する黒木知事の由来碑文の言葉を削除しました。

1997年2月松形知事に対し、①「平和の塔」を戦争遺跡として登録し、保存すると共に歴史教育・平和教育の教材として活用すること、②事実に添った由来碑文に書き改めること、③「八紘一字」の塔建設の関係資料の収集、およびそれらを保存し公開するための施設の設置などの申し入れをしました。また2000年7月の宮崎市でのサミット外相会議に先立つ3月、「県立平和台公園」の由来碑の不正確な記述の訂正を申し入れました。県当局の回答は「いろいろな意見・考え方があり、現状のままで保存する」でした。



8月15日の塔案内風景

2009年12月13日から翌年の3月31日まで、北京の「中国人民抗日戦争記念館」で「八紘一字」の塔のパネル写真展を開催しました。中国人歴史研究者や中国のマスメディア、北京市民等の間で大きな反響を呼びました。

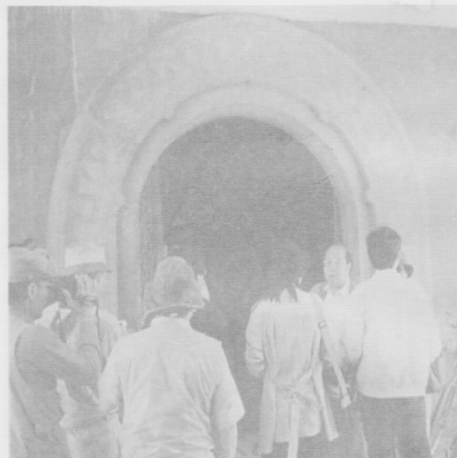
毎年終戦記念日の8月15日、“ウォッチング「八紘一字」の塔”という現地学習会を行っています。塔の内部も見学します。親子連れ大歓迎です。



宮崎市での「八紘一字」の塔写真パネル展



麒麟（きりん）の文様を説明する南京博物館の王さん



旧上海市政府庁舎正面 案内する李さん

発行 「八紘一字」の塔を考える会 初版 2000年8月6日 第6版 2013年8月
連絡先 〒881-0104 西都市鹿野田11275 追立 敏弘 方 tel.Fax 0983-42-5697
税田 啓一郎 090-2081-1380 追立 敏弘 090-9585-8869